

第13回STEP講演会（環境フォーラム）

「里山・耕作放棄地再生——カキ渋産業化」



放棄竹林の現状



渋柿の木



渋柿の青い実を発酵



柿渋

精華町でも里山の竹林化やナラ枯れ、耕作放棄地が目立ちます。江戸時代までの日本は、自然素材を生かした完全な循環型社会でした。最近またそんな社会の良さが見直されています。

古来、山城地域は「カキ渋」の3大生産地のひとつでした。「カキ渋」は木や紙の防水・防腐塗料、布の染色、健康食品として使われてきました。近年は石油化学に押されて需要が激減していますが、最近また従来の利用方法に加えて、「カキ渋」ポリフェノールの医薬品利用や生分解性のプラスチックとしての利用など新しい研究が注目されています。

耕作放棄地や里山の整備をしながら「柿畑」を再生し、家庭でも渋柿の木を植えれば、青い実を「柿シブ」の原料として産業化できる仕組みが既にできています。

今回の環境フォーラム（STEP講演会）は、柿渋・カキタンニン研究会会長・松尾先生の講演を中心に、かつての精華町での柿シブ生産の様子や里山の問題点、竹と柿の産業化などを話し合います。

メイン講師

鹿児島大学名誉教授

柿渋・カキタンニン研究会 会長

農学博士 松尾友明さん

9月2日（土）2時～4時

精華町交流ホール（役場2階）